

# 第7回アジア未来会議報告

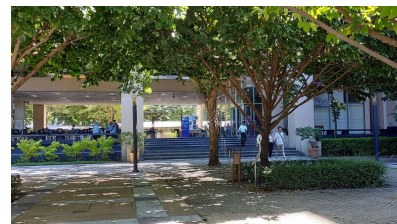
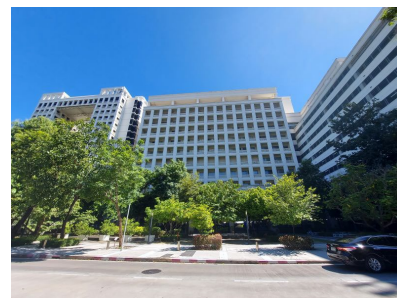
2024年8月9日（金）～13日（火）、バンコク市の中心に位置するチュラーロンコーン大学にて、21ヵ国から346名の登録参加者を得て、第7回アジア未来会議が開催されました。総合テーマは「再生と再会（Revitalization and Reconnection）」。「100年に一度とも言われるパンデミック後のアジア、地球社会は変化の時代に入った。社会、経済、文化、教育など多方面における大きな変化に対して私たちはどのように向き合い、乗り越えて行けばよいのだろうか。国際的・学際的な若い研究者たちが集い、共に語る、この「再会」の場が新しいアジア、地球社会の未来を「再生」させる源ともなることを期待しつつ、課題解決の糸口を模索すること」を目標に、基調講演とオープンフォーラム、円卓会議、そして数多くの研究論文発表が行われ、広範な領域における課題に取り組む国際的かつ学際的な議論が繰り広げられました。

10日（土）午前9時、同大学文学部の教室で、渥美フェローが企画実施を担当する8つの円卓会議が始まりました。

- 1) 日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性「東アジアの『国史』と東南アジア」（日中韓同時通訳）
- 2) チュラーロンコーン大学日本語講座セッション「タイにおける日本研究の現状と展望」（日本語）
- 3) Exploring the Impact of Generative AI on Education and Research（英語）
- 4) Asian Cultural Dialogues “The Limits and Possibilities of Freedom”（英語）
- 5) Animal Release Problems in Asia: Harm caused by introduction of animals into natural environments, with special reference to fish（英語）
- 6) ASEAN Centrality in Turbulent East Asia（英語）
- 7) INAF セッション「東アジア地域協力における朝鮮半島の統一と開発協力」（日本語）
- 8) モンゴルと中央アジアにおける文化と資源の越境（日本語）

午後3時30分からクラウンプラザホテルで開会式が行われました。最初に明石康大会会長の開会宣言があり、同大学文学部スラディート・チョティウドムパン学部長から歓迎挨拶、在タイ日本大使の大鷹正人様と在タイ韓国大使の朴容民様からご祝辞をいただきました。引き続き、渥美直紀・渥美国際交流財団理事長より共催、協賛、参会のお礼と基調講演の講師紹介がありました。

基調講演では、社会起業家でありバンコクで最年少の副知事であるサノン・ワンスランブーン氏が多くのスライドを使って「バンコクと



私たちの未来」について熱く語っていただきました。官僚組織の簡素化、デジタル化を推進しながらも「人々が中心」「動脈から毛細血管へ」と次々に魅力的な改革を紹介して 400 人の聴衆を魅了しました。

引き続き開催されたオープンフォーラム「アジアの巨大都市と未来への挑戦」では、建築・都市開発の専門家によって、巨大都市（メガシティ）の全体像とバンコク、マニラ、そしてインドネシアの都市マカッサルの現状と未来への挑戦についての報告がありました。

その後、会場でウェルカムパーティーが開催され、参加者はタイ料理と民族音楽、人形劇を楽しみました。

第 7 回アジア未来会議のプログラムは下記リンクよりご覧いただけます。

<https://www.aisf.or.jp/AFC/2024/conference-program/>

11 日（日）午前 9 時から、同大学の会場で 53 セッションの分科会が行われ、198 本の論文発表が行われました。アジア未来会議は国際的かつ学際的なアプローチを目指しており、各セッションは発表者が投稿時に選んだ「平和」「環境」「イノベーション」などのトピックに基づいてグループ化され、学会とは趣を異にした多角的で活発な議論が展開されました。

セッションごとに 2 名の座長の推薦により優秀発表賞が選ばれました。優秀発表賞の受賞者リストは下記リンクよりご覧いただけます。

<https://www.aisf.or.jp/AFC/2024/files/2024/08/AFC7BestPresentations.pdf>

優秀論文は学術委員会によって事前に選考されました。2023 年 9 月 20 日までに発表要旨、3 月 31 日までにフルペーパーがオンライン投稿された 94 本の論文を 10 グループに分け、延べ 42 名の審査員が査読しました。ひとつのグループを 6 名の審査員が、(1)論文が会議のテーマ「再生と再会」と適合しているか、(2)分かりやすく構成され、理解しやすいか、(3)論点が明確に提示され説得力があるか、(4)課題への取り組み方に創造性があるか、(5)国際性があるか、(6)学際性があるか、という指針に基づいて審査し、各審査員は、各グループ 9~10 本の論文から 2 本を推薦し、集計の結果、上位 21 本を優秀論文と決定しました。優秀論文リストは下記リンクからご覧いただけます。

<https://www.aisf.or.jp/AFC/2024/files/2024/06/AFC7-BP.pdf>

クロージングパーティーは、午後 6 時 30 分からマンダリンホテルで開催されました。2013 年にバンコクで開かれた第 1 回アジア未来会議のクロージングパーティーでも司会を務めた渥美フェロー 2 名の司会で進められ、優秀賞の授賞式が行われました。今回の受賞者 21 名だけでなく、コロナ禍のために対面で開催できなかった第 6 回の受賞者も含





めて優秀論文の著者 40 名が登壇し、明石大会会長から賞状が手渡されました。続いて、優秀発表賞 52 名が表彰されました。

最後に第 8 回アジア未来会議の開催場所が発表され、ホストである東北学院大学（仙台市）の大西晴樹学長による招待のスピーチとビデオによる大学案内がありました。



12 日（月）、参加者はそれぞれ、アユタヤ観光ツアー、寺院と王宮ツアー、水上マーケットそしてタイ料理教室等に参加しました。



第 7 回アジア未来会議「再生と再会」は、（公財）渥美国際交流財団 関口グローバル研究会（SGRA）主催、チューラーロンコーン大学文学部 東洋言語学科日本語講座の共催、在タイ日本大使館、国際交流基金の後援、（公財）高橋産業経済研究財団と（一社）東京倶楽部からの助成、日本と在タイ日系企業からのご協賛をいただきました。同大学日本語講座では実行委員会を組織し、当日はたくさんの学生さんにお手伝いいただきました。また、タイ鹿島の皆さんにはタイ日系企業への募金と VIP サポートをしていただきました。



主催・協力・賛助者リストは下記リンクからご覧いただけます。

<https://www.aisf.or.jp/AFC/2024/>

運営にあたっては、渥美フェローを中心に実行委員会、学術委員会が組織され、フォーラムの企画からホームページの維持管理、優秀賞の選考、撮影まであらゆる業務を担当しました。特にタイ出身の渥美フェローが企画の最初から最後まで大活躍でした。



400 名の参加者の皆さん、開催のためにご支援くださった皆さん、さまざまな面でボランティアとしてご協力くださった皆さんのおかげで、第 7 回アジア未来会議を和やかかつ賑やかに、成功裡に実施することができましたことを、心より感謝申し上げます。



アジア未来会議は国際的かつ学際的なアプローチを基本として、グローバル化に伴う様々な問題を科学技術の開発や経営分析だけでなく、環境、政治、教育、芸術、文化など、社会のあらゆる次元において多面的に検討する場を提供することを目指しています。SGRA 会員だけでなく、日本に留学し現在世界各地の大学等で教鞭をとっている研究者、その学生、そして日本に興味のある若手・中堅の研究者が一堂に集まり、知識・情報・意見・文化等の交流・発表の場を提供するために、趣旨に賛同してくださる諸機関のご支援とご協力を得て開催するものです。



第 8 回アジア未来会議「空間と距離：こえる、縮める、つくる」は、2026 年 8 月 25 日（火）から 29 日（土）まで、東北学院大学と共催で仙台市で開催します。皆様のご支援、ご協力、そして何よりもご参加をお待ちしています。

第 7 回アジア未来会議の写真（ハイライト）

<https://www.aisf.or.jp/AFC/2024/afc7-highlight-photos/>

第 7 回アジア未来会議のフィードバック集計

<https://www.aisf.or.jp/AFC/2024/files/2024/08/AFC7FeedbackReportV3.pdf>

第 7 回アジア未来会議報告（写真入り）日本語

<https://www.aisf.or.jp/AFC/2024/files/2024/08/JAFC7Report.pdf>

The 7th Asia Future Conference Report (English)

<https://www.aisf.or.jp/AFC/2024/files/2024/08/E AFC7Report.pdf>

第 8 回アジア未来会議（日本、仙台市）案内

<https://www.aisf.or.jp/AFC/2024/files/2024/08/AFC8ChirashiLite.pdf>

（文責：SGRA 代表・アジア未来会議実行委員長 今西淳子）

